

1 養豚場における大腸菌性腸管毒血症の大規模再発事例

由地裕之¹⁾ 末吉益雄^{1)†} 永友寛司¹⁾ 上村涼子¹⁾ 田浦保穂²⁾

1) 宮崎大学農学部 (〒889-2192 宮崎市学園木花台西1h1)

2) 山口大学農学部 (〒753-8515 山口市大字吉田1677h1)

(2008年3月31日受付・2008年8月26日受理)

要 約

1 養豚場において、離乳子豚の急性経過での集団死亡事故が1997年10月から2005年6月までの間に二峰性に認められた。一峰目における死亡子豚の外貌は、発育良好で、眼瞼周囲の浮腫を特徴とし、二峰目における死亡子豚では前駆症状として下痢がみられた。病性鑑定の結果、これらの子豚は大腸菌性腸管毒血症と診断された。本疾病による離乳豚の死亡頭数は約12,000頭に達した。——キーワード：大腸菌，腸管毒血症，子豚。

----- 日獣会誌 62, 211～214 (2009)

† 連絡責任者：末吉益雄 (宮崎大学農学部獣医学科獣医衛生学研究室)

〒889-2192 宮崎市学園木花台西1-1 ☎・FAX 0985-58-7282 E-mail : a0d802u@cc.miyazaki-u.ac.jp